

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	コース	全コース
教科書	『みのり』（本願寺出版社）						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖典聖歌（龍谷総合学園） ・ 日々の糧（相愛学園） ・ リーフレット 						

1 学習の到達目標

一年生は、礼拝などの基本的な仏教儀礼を学び、身につけ、仏教的感觉を育てる。また、悟りを開かれた釈尊の生涯や、浄土真宗の開祖・親鸞聖人の人生にふれながら、仏法の鏡（仏教的価値観）を学ぶ。更には、目には見えないが実際に「はたらいている」もの、思いやり・志など、人にとって大切なものを観ようとする力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

仏教は、清々しく過ごすための一つのヒントになる。まずは、相愛の名前の由来、建学の精神である「まさに互いに、敬愛すべし」という心を、一緒に育てていこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	・ 宗教の各分野について体系的、系統的に理解しているとともに、礼拝の心を理解し、関連する技能を身につけている。	・ 実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	・ 宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	学校の中の生活	1, 私の学校 ・「オリエンテーション」 ・『日々の糧』	○	○	○	I：教育理念を理解し、礼拝の作法についての基礎知識を習得し、実践できる。 II：日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加できる。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
	宗教行事	1, 花まつり 2, 宗祖降誕会	○ ○			I：仏教行事（仏生会・宗祖降誕会）の由来、また、その意義について理解している。三宝について理解を深め、仏門に入るときの意義を理解している。	
	学校の中の生活	2, 三帰依 まとめ 1 学期期末考査	○ ○	 ○		II：日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。平和についての課題（千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要作文）を提出し、非戦平和について意識を高めている。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、授業に積極的に参加できる。	
2 学期	宗教行事	第1節 3, お盆 4, 平和のつどい 5, 彼岸会 6, 成道会 7, 除夜会・元旦会	○ ○ ○ ○	○	○	I：仏教行事（お盆・彼岸会・成道会・除夜会・元旦会）の由来、また、その意義について理解している。 II：日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加できる。	
	学校の中の生活	第2節 3, 阿弥陀如来さま 4, 挨拶 まとめ 2 学期期末考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	I：ご本尊である阿弥陀如来について学び、そのはたらきや願いを知る。 II：仏教用語である「挨拶」について由来を知ること、挨拶の大切さを学び、実践することができる。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加できる。	

3 学 期	宗 教 行 事	第 1 節 8, 御正忌報恩講 9, 涅槃会	○ ○			I : 仏教行事（御正忌報恩講・涅槃会） の由来、また、その意義について理解 している。 II : 日々の糧の内容について自分の問題 としてとらえて表現できる。また、望 ましい人間関係を築くために自分が 大切と考えている価値の傾向に気付 くことができる。また、友達のよさや 考えを共感的に理解し、尊重するこ とができる。 III : 人によって「しあわせ」のとらえ方 が異なることを知り、より自分らしく 生きるために、自分はどのような「し あわせ」を大切にしたいのかを主体的 に考え、明らかにしている。	
	学 校 の 中 の 生 活	第 2 節 5, 親友とは 6, 本当のしあわせ まとめ 学年末考査		○ ○	○ ○		

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	国語	科目	国語	単位数	4	コース	全コース
教科書	「新しい国語 1」(東京書籍)、「中学書写」(光村図書)						
副教材等	「漢字練習ノート 1」(とうほう) 「国語便覧 大阪府版」(浜島書店)、「すらすら基本文法 増補版」(浜島書店) 「国語スイッチ 1」(正進社)、						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中学の国語は、小学校より、長く複雑な文章が増えてきます。予習復習を習慣づけて、ぜひとも真剣に取り組んでください。授業内容だけでなく、自習に関して分からないことがあればなんでも聞いてください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	・伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	・目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを理解しながら読み、筆者の主張や登場人物の主張を適切に読み取ることができる。 ・目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、課題の解決に向けて話し合ったり、適切な文章表現ができる。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり、聞いたり、書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	・学習状況 ・定期テスト ・確認テスト	・学習状況 ・定期テスト ・確認テスト	・学習状況 ・発問への応答 ・課題への取り組み ・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	言葉を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・「風の五線譜」 ・「朗読の世界」 ・「私たちの未来」 ・文法（文節、文の成分、主語・述語、文節相互の関係など） 	○	○	○	<p>I・比喻、反復、体言止めなどの表現の方法を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・言葉の単位について理解している。 ・文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解している。 <p>II・詩に描かれた情景や心情について描写をもとに捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 <p>III・進んで描写をもとに詩の情景を想像し、学習課題に沿って音読しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで文章を読んで話し方について考え、学習課題に沿って、相手にとって聞き取りやすいように話そうとしている。 ・進んで人物の心情などに注意しながら読み、学習課題に沿って、想像したメッセージを伝え合おうとしている。 ・進んで文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・確認テスト ・発問への反応・発言 ・課題やテストへの取り組み・内容・姿勢
1 学期 期末	思いを捉え	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんちき」 		○	○	<p>I・様子を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト

	る	<ul style="list-style-type: none"> ・「オオカミを見る目」 ・文法（品詞、動詞の活用） 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・原因と結果、考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 <p>Ⅱ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。 <p>Ⅲ・進んで人物や情景を描いた表現に注意して読み、学習課題に沿って、人物の心情を想像してまとめようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで段落の役割や段落どうしの関係に着目して読み、学習課題に沿って、文章の書き方の工夫について話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト ・発問への反応・発言 ・課題やテストへの取り組み・内容・姿勢
2 学 期 中 間	伝 統 文 化 に 親 し む	<ul style="list-style-type: none"> ・「月夜の浜辺」 ・「移り行く浦島太郎の物語」 ・「伊曾保物語」 ・「竹取物語」 ・文法（名詞・代名詞・副詞・接続詞） 	○	○	<p>Ⅰ・反復などの表現の技法を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語の決まりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 ・名詞の種類について理解している。 <p>Ⅱ・場面の展開や人物の心情などについて、描写をもとに捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 <p>Ⅲ・進んで詩に描かれた情景や心情を捉え、学習課題に沿って朗読しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・確認テスト ・発問への反応・発言 ・課題やテストへの取り組み・内容・姿勢

					<ul style="list-style-type: none"> ・進んで文章を読んで古典の世界に親しみ、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。 ・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って、古典に描かれた人間の心のありようについて話し合おうとしている。 ・進んで品詞の種類について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。 	
2 学 期 期 末	考 え を ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ・「矛盾」 ・「詩の心 発見の喜び」 ・「私のタンポポ研究」 ・文法（形容詞・形容動詞） 	○	○	<p>I ・音読に必要な訓読の仕方を知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、詩を鑑賞することを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・比喩などの表現の技法を理解している。 ・行為を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 <p>II ・目的や意図に応じて題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の効果について考えている。 ・目的に応じて場面と描写などを結び付け、内容を解釈している。 ・詩の構成や表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・確認テスト ・発問への反応・発言 ・課題やテストへの取り組み・内容・姿勢

					<p>Ⅲ・進んで音読して漢文特有のリズムを味わい、学習課題に沿って、故事成語について調べて自分の考えを文章にまとめようとしている。</p> <p>・進んで詩の情景を想像しながら音読し、学習課題に沿って、表現の工夫について話し合おうとしている。</p> <p>・進んで事実と筆者の考えとの関係を捉え、学習課題に沿って、必要な情報を取り出して要約しようとしている。</p>	
3 学 期	<p>作品を読み解く</p> <p>表現を考える</p>	<p>・「少年の日の思い出」</p> <p>・「ニュースの見方を考えよう」</p>	○	○	<p>Ⅰ・心情を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>Ⅱ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。</p> <p>・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>・目的や意図に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。</p> <p>Ⅲ・進んでさまざまな場面の描写をもとに作品を読み深め、学習課題に沿って、作品の構成の工夫や表現の効果について話し合おうとしている。</p> <p>・積極的にニュースを編集し、学習課題に沿って、ニュースの見方について考えを持とうとしている。</p>	<p>・学習状況</p> <p>・定期テスト</p> <p>・確認テスト</p> <p>・発問への反応・発言</p> <p>・課題やテストへの取り組み・内容・姿勢</p>

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	国語	科目	国語演習	単位数	1	コース	特進
教科書	演習プリント						
副教材等	「国語便覧」(浜島書店)						

1 学習の到達目標

「国語」の読み、書き、読解の技術を身に付けるために数々な内容の文章を読み、基礎、基本の知識を習得する。問題の演習を通して、さまざまなジャンルの文章を読み解く力を養っていききたい。また、基本的な知識の習得とともに、文章の要約等で「書く」力も身につけていききたい。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

日本語の表記の変遷や、日本の伝統文化の豊かさを理解し、日本語や日本文化に対する理解を深めましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを理解しながら読み、筆者の主張や登場人物の主張を適切に読み取ることができる。 目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、課題の解決に向けて話し合ったり、適切な文章表現ができる。 	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり、聞いたり、書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への応答 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への応答 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への応答 疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・文字の発見（ひらかな、カタカナ、漢字）とその特徴、表記の変遷を学ぶ。 ・漢字の部首・構成について学ぶ	○	○		I・漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使っている。 II・語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 III・進んで漢字の部首・構成について理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		日本の伝統的な暦、十二支など、身近にある言葉の歴史を学ぶ。	○		○	I・語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 II・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 III・進んで言葉の歴史について理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		あるテーマをもとに、自分で調査し、自分の考えを発表する。		○	○	I・相手や目的に応じて、話題や、内容の組み立て、表現を工夫している。 II・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 III・進んで相手や目的に応じた説明の仕方について理解し、学習課題に沿って話題を選んだり、内容を整理したり、表現を工夫したりしようとしている。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		カルタと日本文化から百人一首と江戸時代の文芸を学ぶ。	○		○	I 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 II 和歌の構成や表現の仕方について評価している。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への

					Ⅲ・進んで古典を読んでその世界に親しみ、学習課題に沿って、学んだことを文や文章の中で生かそうとする。	応答 ・疑問の発露
3 学 期		好きな和歌や作者について調べ学習をする。 短歌・俳句を作って、クラスで発表する。 年間を通して学んだ内容から、日本語や日本の文化について、自分の考えをまとめる。		○	○ Ⅰ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、俳句を鑑賞することを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 Ⅱ・読み手からの助言などを踏まえ、自分の短歌、俳句のよい点や改善点を見いだしている。 Ⅲ・積極的に短歌、俳句を詠み、学習課題に沿って作品のよさを評価しようとしている。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への 応答 ・疑問の発露

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	社会	科目	社会	単位数	4	コース	全コース
教科書	「社会科 中学生の地理」(帝国書院) 「中学社会 歴史的分野」(日本文教出版)						
副教材等	「中学校社会科地図」(帝国書院)、「オリジナルテキスト」(森の実出版) 「中学歴史資料集 学び考える歴史 大阪府版」(浜島書店)						

1 学習の到達目標

地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って各地域の特色を考察・理解させることにより、地理的な見方や考え方の基礎を養う。また、地域の諸事情を空間的な広がりの中でとらえ、諸条件や人間の活動と関連づけて考察させる。地域の特色の特殊性と一般的な共通性、及びそれらが諸条件によって変容することを理解させる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

それぞれの地域の特色をしっかりとらえ、さまざまな事柄を関連づけて学習できるようにしていきましょう。わからないところはどんどん質問してください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	わが国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに調査や諸資料から、地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係に着目して、多面的に考察し地理的な課題解決に向けたなどを説明したり、論議したりしている。	世界や日本の地理にかかわる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応 ・ ノート内の思考、判断、表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応 ・ ノート内の思考、判断、表現
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	世 界 と 日 本 の 地 域 構 成	第1部 世界と日本の 地域構成				第1章 I 緯度と経度，大陸と海洋の分布，主 な国々の名称と位置などを基に，世界の 地域構成を大観し理解している。 II 世界の地域構成の特色を，大陸と海 洋の分布や主な国の位置，緯度や経度な どに着目して多面的・多角的に考察し， 表現している。 III 世界の地域構成について，よりよい 社会の実現を視野にそこで見られる課 題を主体的に追究しようとしている。	学習態度 確認テスト 発問への対 応 課題
		第1章 世界の姿	○	○	○	第2部第1章 I 人々の生活は，その生活が営まれる 場所の自然及び社会的条件から影響を 受けたり，その場所の自然及び社会的条 件に影響を与えたりすることを理解し ている。 世界各地における人々の生活やその変 容を基に，世界の人々の生活や環境の多 様性を理解している。その際，世界の主 な宗教の分布についても理解している。 II 世界各地における人々の生活の特 色やその変容の理由を，その生活が営ま れる場所の自然及び社会的条件などに 着目して多面的・多角的に考察し，表現 している。 III 世界各地の人々の生活と環境につ いて，よりよい社会の実現を視野にそこ で見られる課題を主体的に追究しよう としている。	
		第2部 世界のさまざ まな地域					
		第1章 人々の生活 と環境	○	○	○		
		第2章 世界の諸地 域					
		1. アジア州	○	○	○		

						<p>第2部第2章 1.</p> <p>I アジア州をいくつかの地域に分けて人口増加と急激な経済発展によるさまざまな影響を整理し、地域ごとの違いをふまえながらアジア州全体の地域的特色や課題を理解している。</p> <p>II 他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を多面的・多角的に考察、表現させる。</p> <p>III 人口増加と急激な経済発展を中心に、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を主体的に追究し解決しようとしている。</p>	
1 学 期 期 末	世 界 の さ ま ざ ま な 地 域	<p>第2部 世界のさまざまな地域</p> <p>第2章 世界の諸地域</p> <p>2. ヨーロッパ州</p> <p>3. アフリカ州</p> <p>4. 北アメリカ州</p>	○	○	○	<p>第2部第2章 2.</p> <p>I ヨーロッパ州に暮らす人々の生活をもとに、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し、EU 統合や文化の多様性に関わる課題が地域的特色の影響を受けて独自の様相を見せていることを理解する。</p> <p>II 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、EU 統合や文化の多様性に関わる課題の要因や影響をヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>III 日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心を持ち、地域的特色及びEU 統合や文化の多様性に関わる課題を意欲的に追究しようとしている。</p> <p>第2部第2章 3.</p> <p>I アフリカ州の人々の生活や産業の特色を歴史的背景をふまえて理解していると同時に、資料からアフリカ諸国とヨーロッパ諸国との関係の深さを調べ</p>	<p>学習態度</p> <p>確認テスト</p> <p>発問への対応</p> <p>課題</p>

						<p>まとめている。</p> <p>Ⅱ 一つの国が輸出品を特定の農産物や鉱産資源にたよるようになった原因を追及し、そのような貿易形態の問題点を多面的多角的に考察し、解決に向けて選択・判断している。</p> <p>Ⅲ モノカルチャー経済やヨーロッパとの関係に着目しながら、アフリカ州の地域的特色に関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。</p> <p>第2部第2章 4.</p> <p>Ⅰ 多様な民族が暮らすアメリカ合衆国において、広大な国土を利用して大規模な農業が行われていることや世界をリードし続けている工業の姿について理解しまとめている。</p> <p>Ⅱ 北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察している。</p> <p>Ⅲ 世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。</p>	
2 学 期 中 間	世 界 の さ ま ざ ま な 地 域	<p>第2部 世界のさまざまな地域</p> <p>第2章 世界の諸地域</p> <p>5. 南アメリカ州</p> <p>6. オセアニア州</p> <p>第1部 世界と日本の地域構成</p> <p>第2章 日本の姿</p> <p>第3部 日本のさまざまな地域</p> <p>第1章 身近な地域の調査</p> <p>第2章 日本の地域的特色</p> <p>第3章 日本の諸地</p>	○	○	○	<p>第2部第2章 5.</p> <p>Ⅰ 多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた歩みと、経済成長をとげた国とそうでない国とが共存する地域の姿を理解するとともに、ブラジルでは経済発展が進む一方で、経済格差などの問題が生じていることを、本文や資料から調べまとめている。</p> <p>Ⅱ 近年の顕著なブラジルの経済成長の要因と、経済成長とともに環境問題が起きていることやその解決を多面的・多角的に考察している。</p> <p>Ⅲ 多民族の共存や近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発の地域に対する影響を主体的に追究し、解決しようとし</p>	学習態度 確認テスト 発問への対応 課題

		域 1. 九州地方	○	○	○	<p>ている。</p> <p>第1部第2章</p> <p>I 我が国の国土の位置，世界各地との時差，領域の範囲や変化とその特色などを基に，日本の地域構成を大観し理解している。</p> <p>II 日本の地域構成の特色を，周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>III 日本の地域構成について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>第3部第1章</p> <p>I 観察や野外調査，文献調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方の基礎を理解している。</p> <p>地形図や主題図の読図，目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</p> <p>II 地域調査において，対象となる場所の特徴などに着目して，適切な主題や調査，まとめとなるように，調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>III 地域調査の手法について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>第3部第2章</p> <p>I 日本の地形や気候の特色，海洋に囲まれた日本の国土の特色，自然災害と防災への取組などを基に，日本の自然環境に関する特色を理解している。</p> <p>少子高齢化の課題，国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に，日本の人口に関する特色を理解している。</p> <p>日本の資源・エネルギー利用の現状，国</p>	
--	--	--------------	---	---	---	--	--

					<p>内の産業の動向，環境やエネルギーに関する課題などを基に，日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。</p> <p>国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況，これを活用した陸上，海上輸送などの物流や人の往来などを基に，国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。</p> <p>「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ，我が国の国土の特色を大観し理解している。</p> <p>日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に，地域区分をする技能を身に付けている。</p> <p>Ⅱ 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について，それぞれの地域区分を，地域の共通点や差異，分布などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>日本の地域的特色を，「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して，それらを関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>Ⅲ 日本の地域的特色と地域区分について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>第3部第3章 1.</p> <p>Ⅰ 地図や資料から，九州地方の自然環境の特色やそれを生かした産業，自然災害や防災への取り組みを読み取り、九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色や，人々の生活や産業と自然環境とのかかわりについて理解している。</p> <p>Ⅱ 自然環境に注目しながら，九州地方に暮らす人々の生活と産業との関係に</p>	
--	--	--	--	--	---	--

						ついて多面的・多角的に考察している。 Ⅲ 九州地方の自然環境と生活，産業との関係について関心をもち，九州地方の特色を主体的に追究しようとしている。	
2 学 期 期 末	日 本 の さ ま ざ ま な 地 域	第3章 日本の諸地域 2. 中国・四国地方 3. 近畿地方 4. 中部地方 5. 関東地方	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	第3部第3章 2. Ⅰ 地図や資料から，中国・四国地方の交通・通信網による結びつきを具体的にとらえ、他地域との結びつきに注目した視点で産業や生活の変化を理解している。 Ⅱ 他地域との結びつきや産業の変容を，人や物の移動の量や方向から多面的・多角的に考察している。 Ⅲ 中国・四国地方の歴史や地形，他地域との結びつきに関心をもち，それを主体的に追究している。 第3部第3章 3. Ⅰ 地図や資料から，近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全について読み取り、環境保全に注目した視点から，近畿地方の地域的特色を理解している。 Ⅱ 自然環境や歴史的景観の保全に注目しながら，そこに住む人々の生活や産業の変化などとの関係について，原因と対策，目的の面から多面的・多角的に考察している。 Ⅲ 自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた近畿地方の地域的特色に関心をもち，自然環境や人々の生活，産業などと関連させながら，主体的に追究している。 第3部第3章 4. Ⅰ さまざまな資料を活用して，中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取り、その地形や自然環境などにより異なる産業が発達したことを理解している。	学習態度 確認テスト 発問への対応 課題

						<p>Ⅱ 中部地方の三つの地域において，さ かんな産業に違いがある理由や，それぞ れの産業が発達した理由について多面 的・多角的に考察している。</p> <p>Ⅲ 産業の視点からみた中部地方の特 色に関心をもち，自然環境や人々の生活 と関連させながら，主体的に追究してい る。</p> <p>第3部第3章 5.</p> <p>Ⅰ 関東地方の地域的特色やそれと関 連する事象とそこに生ずる課題につい て理解している。</p> <p>Ⅱ 関東地方における人口の集中が成 立する条件を、地域の広がりや他地域と の結びつき、人々の対応などに着目し て、他の事象やそこで生ずる課題と関連 づけて、多面的・多角的に考察し、表現 している。</p> <p>Ⅲ 地域の広がりや他地域との結びつ き、人々の対応などに着目しながら、関 東地方に暮らす人々の生活に監視をも ち、地域的特色や地域の課題を意欲的に 追求しようとしている。</p>	
3 学 期	日 本 の さ ま ざ ま な 地 域	<p>第3章 日本の諸地 域</p> <p>6. 東北地方</p> <p>7. 北海道地方</p> <p>第4部 地域の在り方</p> <p>歴史的分野</p> <p>第1編 私たちと歴史</p> <p>第2編 古代までの日 本と世界</p> <p>1. 人類の始まりと文 明</p>	○	○	○	<p>第3部第3章 6.</p> <p>Ⅰ 地図や写真・雨温図などから，東北 地方の自然環境の特色や，伝統的な祭り や工芸品の特色を読み取り，東北地方の 地域的特色について理解している。</p> <p>Ⅱ 東北地方の産業の発達を写真や地 図・グラフなどを活用してとらえ、人々 の生活の変化と，それにもなう東北地 方の産業の課題を多面的・多角的に考察 している。</p> <p>Ⅲ 東北地方を伝統的な祭りや工芸品， 町なみの特色など生活・文化の視点か ら，関心をもって主体的に追究してい る。</p>	学習態度 確認テスト 発問への対 応 課題

					<p>第3部第3章 7.</p> <p>I 地図や雨温図，統計資料などから北海道地方の地域的特色に関する情報を読み取り、北海道地方について，自然環境に注目した視点から地域的特色を理解している。</p> <p>II 産業や開発の歴史に関する特色あることがらに注目して，自然環境や外国とのかかわりなどと関連づけて多面的・多角的に考察している。</p> <p>III 自然環境に注目した視点から，自然環境・産業や都市の発展と変化などに関心をもち，北海道地方の特色を主体的に追究している。</p> <p>第4部</p> <p>I 地域の実態や課題解決のための取組を理解している。</p> <p>地域的な課題の解決に向けて考察，構想したことを適切に説明，議論しまとめる手法について理解している。</p> <p>II 地域の在り方を，地域の結び付きや地域の変容，持続可能性などに着目し，そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。</p> <p>III 地域の在り方について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p> <p>歴史的分野</p> <p>第1編</p> <p>I 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。</p> <p>資料から歴史に関わる情報を読み取ったり，年表などにまとめたりする技能を身につけている。</p> <p>II 時期や年代，推移，比較，相互の関</p>	
--	--	--	--	--	--	--

					<p>連や現在とのつながりなどに着目して、小学校での学習をふまえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。</p> <p>Ⅲ 私たちと歴史について、歴史的な見方・考え方に沿った視点を生かしてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>第2編 1.</p> <p>Ⅰ 人類の誕生や世界の古代文明や宗教のおこりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。</p> <p>Ⅱ 人類の進化の移り変わりや古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の各地で文明が築かれたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>Ⅲ 資料から人類が誕生した時代の前後を比較することを通して、古代までの日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>	
--	--	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	数学	科目	数学	単位数	4	コース	AC
教科書	これからの数学 1（数研出版）						
副教材等	中学必修テキスト 1 年 スピードテスト スタディサプリ						

1 学習の到達目標

正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。

数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

AC コースとして、難易度の高い問題、粘り強い思考力を必要とする問題等に挑戦し、自らの力量を向上させようとする意欲を養う。AC

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業内での理解を深め、問題演習で基礎の定着を図ってください。家庭学習では授業ノートを参考にし、復習をしっかりと行い、同じ問題を繰り返し解くようにしてください。

授業終わりなどのタイミングで課題が配信されることがあります。見逃すことがないように取り組んでいきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見出したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・スピードテスト ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・探求ノート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第 1 章 正の数と負の数	①正の数と負の数	○	○	○	<p>I</p> <p>○正の数と負の数の必要性和意味について、それらが使われている具体的な場面に結びつけて理解している。</p> <p>○基準とのちがいや反対の性質をもつ数量を、符号のついた数で表すことができる。</p> <p>○正の数と負の数を数直線上に表すことができる。</p> <p>II</p> <p>○基準のとり方と表される数の関係について考察し、説明することができる。</p> <p>○数の範囲を負の数に拡張した数直線について考えることができる。</p> <p>○正の数と負の数の大小関係について、数直線と絶対値をもとに説明することができる。</p> <p>III</p> <p>○正の数と負の数の必要性和意味を考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		②加法と減法	○	○	○	<p>I</p> <p>○正の数と負の数の加法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p>	

					<p>○正の数と負の数の加法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。</p> <p>○正の数と負の数の減法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>○加法と減法の混じった式の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>II</p> <p>○既習の計算をもとにして、符号の異なる加法の計算方法を見だし、符号や絶対値などに着目してまとめることができる。</p> <p>○既習の計算をもとにして、減法の計算方法を考察し、数直線を使って説明することができる。</p> <p>○正の数と負の数の減法の結果についてまとめ、説明することができる。</p> <p>○加法と減法を統一的にみて、加法と減法の混じった式を正の項や負の項の和として捉えることができる。</p> <p>III</p> <p>○正の数と負の数の加法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○加法と減法を統一的にみて、減法を加法の計算ととらえようとしている。</p>	
		③乗法と除法	○	○ ○	<p>I</p> <p>○正の数と負の数の乗法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>○正の数と負の数の乗法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。</p> <p>II</p> <p>○東西の移動をもとにして、乗法の計算方法を見だし、説明することができる。</p> <p>○乗法と積の符号のきまりについて考察し、説明することができる。</p> <p>○既習の計算をもとにして、除法の計算方法を考察し、説明することができる。</p>	

						<p>○乗法と除法を統一的にみて、逆数を用いて除法を乗法の計算ととらえることができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○正の数と負の数の除法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○乗法と除法を統一的にみて、除法を乗法の計算ととらえようとしている。</p>	
1 学 期 期 末	第 1 章 正 の 数 と 負 の 数	④いろいろな計算	○	○	○	<p>I</p> <p>○四則の混じった式の計算順序を理解し、その計算ができる。</p> <p>○正の数と負の数の計算において分配法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○数の集合とその集合における四則計算の可能性についてとらえ直すことができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○正の数と負の数を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポ ー ト 課 題 提出物
	第 2 章 文 字 と 式	①文字と式	○	○	○	<p>I</p> <p>○文字を用いることの必要性和意味を理解している。</p> <p>○文字式で表された数量が、操作の方法を表しているとともに、操作の結果も表しているということを理解している。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○規則的に変化する事象を、文字式を使って一般的に表すことができる。</p> <p>○1 種類の文字で表された式と 2 種類の文字で表された式のちがいを考察し、説明することができる。</p> <p>○求めた式の値を具体的な場面と結びつけて考えることができる。</p>	小テスト 定期考査 レポ ー ト 課 題 提出物

		②文字式の計算	○	○	○	<p>Ⅲ</p> <p>○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>Ⅰ</p> <p>○1 次式の加法と減法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>○1 次式と数の乗法と除法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○1 次式の加法と減法について、数の計算と関連づけて考え、説明することができる。</p> <p>○1 次式の加法と減法について、具体的な場面と関連づけて考え、説明することができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○1 次式の加法と減法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○1 次式と数の乗法と除法の計算方法を考えようとしている。</p>	
2 学期 中間	第2章 文字と式	③ 文字式の利用	○	○	○	<p>Ⅰ</p> <p>○数量の相等関係を等式で表したり、等式から数量の相等関係を読み取ることができる。</p> <p>○数量の大小関係を不等式で表したり、不等式から数量の大小関係を読み取ることができる。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○文字式が表す数量を、具体的な数におきかえて考えることができる。</p> <p>○文字式を具体的な場面で利用することができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○文字式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○文字式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

	第3章 1次方程式	①1次方程式	○	○	○	<p>I</p> <p>○方程式の必要性和意味を理解している。</p> <p>○方程式の解の意味を理解している。</p> <p>II</p> <p>○等式の性質をもとにして方程式を解く方法について考察し、説明することができる。</p> <p>○等式の性質の[1]と[2]，[3]と[4]をそれぞれ統合的にみることができる。</p> <p>III</p> <p>○方程式の必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>○いろいろな方程式を能率的に解く方法を考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		②1次方程式の利用	○	○	○	<p>I</p> <p>○方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する手順を理解している。</p> <p>○求めた解がもとの問題の答えとして適切なものであるかどうかを確かめることができる。</p> <p>II</p> <p>○方程式を具体的な場面で利用することができる。</p> <p>III</p> <p>○方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○方程式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	
2学期期末	4章 比例と反比例	①比例	○	○	○	<p>I</p> <p>○関数の意味を理解している。</p> <p>○変数，変域の意味を理解している。</p> <p>○比例の関係を式に表すことができる。</p> <p>○比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>○比例のグラフの特徴を理解している。</p> <p>II</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

						<p>○比例の表，式，グラフを相互に関連づけてみることができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○比例の関係を，変域や比例定数が負の数の場合に広げて考えようとしている。</p>
		② 反比例	○	○	○	<p>Ⅰ</p> <p>○反比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>○反比例のグラフの特徴を理解している。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○反比例の関係を負の範囲に拡張し，関数関係としてとらえ直すことができる。</p> <p>○x と y の関係を表に整理して，変化と対応を調べることができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○反比例の表，式，グラフを相互に関連づけようとしている。</p>
		③ 比例と反比例の利用		○	○	<p>Ⅱ</p> <p>○具体的な事象を比例，反比例とみなし，式，表，グラフを利用して考察することができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○比例，反比例を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>

3 学 期	第 5 章 平 面 図 形	①平面図形	○	○	○	<p>I</p> <p>○平面上の点や直線の位置関係をとることができる。</p> <p>○記号を用いて、点や直線の関係、角を表すことができる。</p> <p>II</p> <p>○移動前と移動後の2つの図形の関係に着目して図形の性質や関係を見だし、説明することができる。</p> <p>○図形の移動を具体的な場面で利用することができる。</p> <p>III</p> <p>○2つの図形がどのような移動によって重なるかについて、多様な方法を考えようとしている。</p> <p>○移動前と移動後の2つの図形の関係について考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		②作図	○	○	○	<p>I</p> <p>○垂直二等分線、角の二等分線、垂線を作図する方法を理解している。</p> <p>II</p> <p>○図形の対称性や図形を決定する要素に着目して基本的な作図の方法を見だし、説明することができる。</p> <p>○基本的な作図の方法について、図形の対称性をもとに統合的にみることができる。</p>	
		③円	○	○	○	<p>III</p> <p>○作図の方法について、図形の対称性をもとにして考えようとしている。</p> <p>I</p> <p>○円の弦の性質を理解している。</p> <p>II</p> <p>○円の接線を作図する方法を見いだすことができる。</p>	

	第6章 空間図形	① 空間図形	○	○	○	<p>I</p> <p>○空間において直線や平面がどのように決定されるかを理解している。</p> <p>○空間における直線や平面の位置関係を理解している。</p> <p>II</p> <p>○空間における直線や平面の位置関係について考察し，説明することができる。</p> <p>III</p> <p>○立体を多面的に考察しようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		② 立体の体積と表面積	○	○	○	<p>I</p> <p>○角柱，円柱，角錐，円錐の体積・表面積の求め方を理解し，それらを求めることができる。</p> <p>○球の体積や表面積を求めることができる。</p> <p>II</p> <p>○見取図と展開図を相互に関連づけてみることができる。</p> <p>III</p> <p>○角柱，円柱，角錐，円錐の体積・表面積の求め方を考えようとしている。</p>	
	第7章 データの活用	① データの整理とその活用	○	○	○	<p>I</p> <p>○ヒストグラムの必要性和意味を理解している。</p> <p>○データを表やグラフに整理することができる。</p> <p>II</p> <p>○データを分析して分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。</p> <p>III</p> <p>○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		② 確率	○	○	○	I	

					<p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。</p> <p>Ⅱ</p> <p>○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，事象の起こりやすさの傾向を読み取り，説明することができる。</p> <p>Ⅲ</p> <p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p>	
--	--	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	数学	科目	数学	単位数	4	コース	PC・音楽
教科書	これからの数学 1（数研出版）						
副教材等	中学必修テキスト 1 年 スピードテスト スタディサプリ						

1 学習の到達目標

正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。

数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業内での理解を深め、問題演習で基礎の定着を図ってください。家庭学習では授業ノートを参考にし、復習をしっかりと行い、同じ問題を繰り返し解くようにしてください。

授業終わりなどのタイミングで課題が配信されることがあります。見逃すことがないように取り組んでいきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見出したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・探求ノート

方 法	・スピードテスト ・発問への対応	・発問への対応	・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	第 1 章 正 の 数 と 負 の 数	①正の数と負の数	○	○	○	I ○正の数と負の数の必要性和意味について、それらが使われている具体的な場面に結びつけて理解している。 ○基準とのちがいや反対の性質をもつ数量を、符号のついた数で表すことができる。 ○正の数と負の数を数直線上に表すことができる。 II ○基準のとり方と表される数の関係について考察し、説明することができる。 ○数の範囲を負の数に拡張した数直線について考えることができる。 ○正の数と負の数の大小関係について、数直線と絶対値をもとに説明することができる。 III ○正の数と負の数の必要性和意味を考えようとしている。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		②加法と減法	○	○	○	I ○正の数と負の数の加法の計算方法を理解し、その計算ができる。 ○正の数と負の数の加法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。 ○正の数と負の数の減法の計算方法を理解し、その計算ができる。	

		③乗法と除法	○	○	○	<p>○加法と減法の混じった式の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>Ⅱ○既習の計算をもとにして、符号の異なる加法の計算方法を見だし、符号や絶対値などに着目してまとめることができる。</p> <p>○既習の計算をもとにして、減法の計算方法を考察し、数直線を使って説明することができる。</p> <p>○正の数と負の数の減法の結果についてまとめ、説明することができる。</p> <p>○加法と減法を統一的にみて、加法と減法の混じった式を正の項や負の項の和として捉えることができる。</p> <p>Ⅲ○正の数と負の数の加法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○加法と減法を統一的にみて、減法を加法の計算ととらえようとしている。</p>	
1 学	第 1	④いろいろな計算	○	○	○	<p>Ⅰ○正の数と負の数の乗法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>○正の数と負の数の乗法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。</p> <p>Ⅱ○東西の移動をもとにして、乗法の計算方法を見だし、説明することができる。</p> <p>○乗法と積の符号のきまりについて考察し、説明することができる。</p> <p>○既習の計算をもとにして、除法の計算方法を考察し、説明することができる。</p> <p>○乗法と除法を統一的にみて、逆数を用いて除法を乗法の計算ととらえることができる。</p> <p>Ⅲ○正の数と負の数の除法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○乗法と除法を統一的にみて、除法を乗法の計算ととらえようとしている。</p>	小テスト 定期考査

期 期 末	章				<p>○正の数と負の数の計算において分配法則が成り立つことを理解し、法則を利用した計算ができる。</p> <p>Ⅱ○数の集合とその集合における四則計算の可能性についてとらえ直すことができる。</p> <p>Ⅲ○正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○正の数と負の数を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	レポ ー ト 課 題 提出物	
	第 2 章	①文字と式	○	○	○	<p>I ○文字を用いることの必要性和意味を理解している。</p> <p>○文字式で表された数量が、操作の方法を表しているとともに、操作の結果も表しているということを理解している。</p> <p>Ⅱ○規則的に変化する事象を、文字式を使って一般的に表すことができる。</p> <p>○1 種類の文字で表された式と 2 種類の文字で表された式のちがいを考察し、説明することができる。</p> <p>○求めた式の値を具体的な場面と結びつけて考えることができる。</p> <p>Ⅲ○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポ ー ト 課 題 提出物
		②文字式の計算	○	○	○	<p>I ○1 次式の加法と減法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>○1 次式と数の乗法と除法の計算方法を理解し、その計算ができる。</p> <p>Ⅱ○1 次式の加法と減法について、数の計算と関連づけて考え、説明することができる。</p> <p>○1 次式の加法と減法について、具体的な場面と関連づけて考え、説明することができる。</p> <p>Ⅲ○1 次式の加法と減法の計算方法を考えようとしている。</p> <p>○1 次式と数の乗法と除法の計算方法を考えようとしている。</p>	

2 学 期 中 間	第 2 章 文 字 と 式	③ 文字式の利用	○	○	○	<p>I ○数量の相等関係を等式で表したり、等式から数量の相等関係を読み取ることができる。</p> <p>○数量の大小関係を不等式で表したり、不等式から数量の大小関係を読み取ることができる。</p> <p>II ○文字式が表す数量を、具体的な数におきかえて考えることができる。</p> <p>○文字式を具体的な場面で利用することができる。</p> <p>III ○文字式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○文字式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
	第 3 章 1 次 方 程 式	①1 次方程式	○	○	○	<p>I ○方程式の必要性和意味を理解している。</p> <p>○方程式の解の意味を理解している。</p> <p>II ○等式の性質をもとにして方程式を解く方法について考察し、説明することができる。</p> <p>○等式の性質の[1]と[2], [3]と[4]をそれぞれ統合的にみることができる。</p> <p>III ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>○いろいろな方程式を能率的に解く方法を考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
		② 1 次方程式の利用	○	○	○	<p>I ○方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する手順を理解している。</p> <p>○求めた解がもとの問題の答えとして適切なものであるかどうかを確かめることができる。</p> <p>II ○方程式を具体的な場面で利用することができる。</p> <p>III ○方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○方程式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	

2 学 期 期 末	4 章 比 例 と 反 比 例	① 比例	○	○	○	<p>I ○関数の意味を理解している。</p> <p>○変数，変域の意味を理解している。</p> <p>○比例の関係を式に表すことができる。</p> <p>○比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>○比例のグラフの特徴を理解している。</p> <p>II ○比例の表，式，グラフを相互に関連づけてみることができる。</p> <p>III ○比例の関係を，変域や比例定数が負の数の場合に広げて考えようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課 題 提出物
		② 反比例	○	○	○	<p>I ○反比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>○反比例のグラフの特徴を理解している。</p> <p>II ○反比例の関係を負の範囲に拡張し，関数関係としてとらえ直すことができる。</p> <p>○x と y の関係を表に整理して，変化と対応を調べることができる。</p> <p>III ○反比例の表，式，グラフを相互に関連づけようとしている。</p>	
		③ 比例と反比例の利用		○	○	<p>II ○具体的な事象を比例，反比例とみなし，式，表，グラフを利用して考察することができる。</p> <p>III ○比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>○比例，反比例を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p>	
3 学 期	第 5 章 平 面 図 形	①平面図形	○	○	○	<p>I ○平面上の点や直線の位置関係をとらえることができる。</p> <p>○記号を用いて，点や直線の関係，角を表すことができる。</p> <p>II ○移動前と移動後の2つの図形の関係に着目して図形の性質や関係を見だし，説明することができる。</p> <p>○図形の移動を具体的な場面で利用することができる。</p>	小テスト 定期考査 レポート課 題 提出物

		②作図	○	○	○	<p>Ⅲ○2つの図形がどのような移動によって重なるかについて、多様な方法を考えようとしている。</p> <p>○移動前と移動後の2つの図形の関係について考えようとしている。</p> <p>Ⅰ○垂直二等分線，角の二等分線，垂線を作図する方法を理解している。</p> <p>Ⅱ○図形の対称性や図形を決定する要素に着目して基本的な作図の方法を見だし，説明することができる。</p> <p>○基本的な作図の方法について，図形の対称性をもとに統合的にみることができる。</p> <p>Ⅲ○作図の方法について，図形の対称性をもとにして考えようとしている。</p>	
		③円	○	○	○	<p>Ⅰ○円の弦の性質を理解している。</p> <p>Ⅱ○円の接線を作図する方法を見いだすことができる。</p>	
第6章 空間図形	① 空間図形		○	○	○	<p>Ⅰ○空間において直線や平面がどのように決定されるかを理解している。</p> <p>○空間における直線や平面の位置関係を理解している。</p> <p>Ⅱ○空間における直線や平面の位置関係について考察し，説明することができる。</p> <p>Ⅲ○立体を多面的に考察しようとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
	② 立体の体積と表面積		○	○	○	<p>Ⅰ○角柱，円柱，角錐，円錐の体積・表面積の求め方を理解し，それらを求めることができる。</p> <p>○球の体積や表面積を求めることができる。</p> <p>Ⅱ○見取図と展開図を相互に関連づけてみることができる。</p> <p>Ⅲ○角柱，円柱，角錐，円錐の体積・表面積の求め方を考えようとしている。</p>	

第 7 章 デ ー タ の 活 用	① データの整理とその活用	○	○	○	<p>I ○ヒストグラムの必要性和意味を理解している。</p> <p>○データを表やグラフに整理することができる。</p> <p>II ○データを分析して分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。</p> <p>III ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p>	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
	② 確率	○	○	○	<p>I ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。</p> <p>II ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，事象の起こりやすさの傾向を読み取り，説明することができる。</p> <p>III ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。</p> <p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p>	

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	理科	科目	理科	単位数	4	コース	全コース
教科書	未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館)						
副教材等	Key ワーク理科 1 年 (教育開発出版)						

1 学習の到達目標

① 自然の事物・現象に対して関心を持ち、意欲的に進んでかかわること。
② 目的意識をもって観察、実験などを行うこと。
③ 科学的に探究する能力の基礎と態度を育てること。
④ 自然の事物・現象についての知識・理解を深めること。
⑤ 科学的な見方や考え方・表現を養うこと。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生活の中にある科学を理解し、応用力を身につける。 高等学校での理科の学習にむけて実力を養う。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生命	<p>自然の中にあふれる生命</p> <p>いろいろな生物とその共通点</p> <p>1章 植物の特徴と分類</p>	○	○	○	<p><1章 植物の特徴と分類></p> <p>【I】いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると同時に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【II】植物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすと同時に、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【III】植物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	<p>行動観察、発言、発表、パフォーマンステスト、レポート、探究シート、ワークシート、小テスト・定期テストなど</p>
1 学期 期末	<p>生命</p> <p>物質</p>	<p>いろいろな生物とその共通点</p> <p>2章 動物の特徴と分類</p> <p>身のまわりの物質</p> <p>1章 いろいろな物質とその性質</p>	○	○	○	<p><2章 動物の特徴と分類></p> <p>【I】いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると同時に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【II】植物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすと同時に、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【III】植物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学</p>	<p>行動観察、発言、発表、パフォーマンステスト、レポート、探究シート、ワークシート、小テスト・定期テストなど</p>

					<p>的に探究しようとしている。</p> <p><1章 いろいろな物質とその性質></p> <p>【Ⅰ】身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】物質のすがたについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>		
2 学 期 中 間	物 質	<p>身のまわりの物質</p> <p>2章 いろいろな気体とその性質</p> <p>3章 水溶液の性質</p> <p>4章 物質のすがたとその変化</p>	○	○	○	<p><2章 いろいろな気体とその性質></p> <p>【Ⅰ】身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】物質のすがたについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p><3章 水溶液の性質></p> <p>【Ⅰ】身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけてい</p>	<p>行動観察，発言，発表，パフォーマンステスト，レポート，探Qシート，ワークシート，小テスト・定期テストなど</p>

					<p>る。</p> <p>【Ⅱ】水溶液について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】水溶液に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p><4章 物質のすがたとその変化></p> <p>【Ⅰ】身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら，状態変化と熱，物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】状態変化について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】状態変化に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p>		
2 学 期 期 末	エ ネ ル ギ ー	<p>光・音・力による現象</p> <p>1章 光による現象</p> <p>2章 音による現象</p> <p>3章 力による現象</p>	○	○	○	<p><1章 光による現象></p> <p>【Ⅰ】光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら，光の反射や屈折，凸レンズのはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】光について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，光の反射や屈折，凸レンズのはたらきの規則</p>	<p>行動観察，発言，発表，パフォーマンステスト，レポート，探究シート，ワークシート，小テスト・定期テストなど</p>

						<p>性や関係性を見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】光に関する事物・現象に進んでかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p><2章 音による現象></p> <p>【Ⅰ】音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら，音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】音について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，音の性質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】音に関する事物・現象に進んでかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p><3章 力による現象></p> <p>【Ⅰ】力のはたらきに関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら，力のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】力のはたらきについて，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】力のはたらきに関する事物・現象に進んでかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p>	
3	地球	活きている地球 1章 身近な大地	○	○	○	<p><1章 身近な大地></p> <p>【Ⅰ】大地の成り立ちと変化を地表に見</p>	行動観察，発言，発表，パ

学 期		2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地			<p>られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層，岩石の観察についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】身近な地形や地層，岩石の観察について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】身近な地形や地層，岩石の観察に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p><2章 ゆれる大地></p> <p>【Ⅰ】大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら，地震の伝わり方と地球内部のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】地震について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，地震のゆれの大きさや伝わり方の規則性などを見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】地震に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p><3章 火をふく大地></p> <p>【Ⅰ】大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら，火山活動と火成岩についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作</p>	フォーマン ステスト，レ ポート，探Q シート，ワー クシート，小 テスト・定期 テストなど
--------	--	----------------------------------	--	--	---	--

					<p>や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】火山について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】火山に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p> <p>＜４章 語る大地＞</p> <p>【Ⅰ】大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら，地層の重なりと過去のようす，自然の恵みと火山災害・地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p> <p>【Ⅱ】地層の重なりと過去のようす，自然の恵みと火山災害・地震災害について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，地層の重なり方や広がり方の規則性，火山活動や地震発生のしくみとの関係性などを見いだして表現しているなど，科学的に探究している。</p> <p>【Ⅲ】地層の重なりと過去のようす，自然の恵みと火山災害・地震災害に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。</p>	
--	--	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	音楽	科目	音楽	単位数	2	コース	全コース
教科書	「中学生の音楽Ⅰ」(教育芸術社)、「中学生の器楽」(教育芸術社)						
副教材等	白表紙聖歌集、プリント、アルトリコーダー、iPad						

1 学習の到達目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

音楽の基礎を学び、歌う、楽器を演奏する、鑑賞をするなどの活動を通して、音楽の楽しさや美しさを感じ、また多くの種類の音楽に接することで音楽の世界が広がることを願っています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	<p>【表現】</p> <p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり及び音楽の多様性について理解している。そして、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な 技能を身に付け、歌唱、器楽で表現している。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。</p> <p>また、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>【共通事項】</p> <p>音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。</p>	<p>【表現】</p> <p>旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、教材の楽曲様式などの知覚したことで感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>	<p>【表現・鑑賞】</p> <p>音や音楽、音楽文化、時代背景に親しむことができるように音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・鑑賞や楽曲のレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・鑑賞や楽曲のレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応 ・レポート ・教材の準備
------	---	---	---

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	歌唱	1. 礼拝の歌、毎月 of 聖歌、宗祖降誕会 of 歌 2. 「主人は冷たい土の中に(静かに眠れ)」 3. 「We'll Find The Way ～はるかな道へ」 4. 「その先へ」			○	I：声 of 音色や響き、音域と声 of 出し方との関わりについて理解している。 音域に応じた発声、母音 of 発音、歌う姿勢などの技能を身に付けている。 II：歌唱表現に関わる知識（声 of 音色や響き、音域と声 of 出し方との関わり）や技能（音域に応じた発声、母音 of 発音、歌う姿勢など）を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫している。 III：歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲 of レポート ・教材 of 準備
	アルトリコーダー	1. 各部 of 名称 2. タンギング 3. 「喜び of 歌」 4. 「かつこう」	○	○	○	I：アルトリコーダー of 音色や響きと奏法 of 関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現で演奏するためのタンギングや左手 of 運指などの技能を身に付けている。 II：器楽表現に関わる知識（アルトリコーダー of 音色と奏法との関わり、曲想と音楽 of 構造との関わり）や技能（タンギングや左手 of 運指など）を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。 III：器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、楽表現を創意工	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲 of レポート ・教材 of 準備

					夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	
	鑑賞	ヴィヴァルディ作曲 「春」	○	○	○ Ⅰ：曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関わりについて理解している。 Ⅱ：鑑賞に関わる知識（曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関わり）を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 Ⅲ：鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・鑑賞ポート ・教材の準備
2 学 期	歌唱	1.毎月の聖歌 2.コーラスコンクールの歌 3.「浜辺の歌」 4.「赤とんぼ」 5.「君をのせて」	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ Ⅰ：曲想と形式や歌詞との関わりについて理解している。 音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などを身に付けている。 Ⅱ：歌唱表現に関わる知識（曲想と形式や歌詞との関わり）や技能（音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音など）を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫している。 Ⅲ：歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲のレポート ・教材の準備
	アルトリコーダー	1.「聖者の行進」 2.「アーティキュレーション」	○ ○	○ ○	○ Ⅰ：アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かし、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。 Ⅱ：器楽表現に関わる知識（アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わり）や技能（他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する）を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。 Ⅲ：器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲のレポート ・教材の準備

						んでいる。	
	鑑賞	1. シューベルト作曲 「魔王」 2. 雅楽「越天楽」	○ ○	○ ○	○ ○	I : 「魔王」 歌曲の形式の相違や特徴と歴史的背景との関わりについて理解している。 「越天楽」 雅楽の音楽的な特徴とその背景となる文化や歴史と関わりについて理解している。 II : 「魔王」 鑑賞に関わる知識（歌曲の形式の相違や特徴と歴史的背景との関わり）を得たり生かしたりしながら、作曲当時の歌曲の意味や形式の違いについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 「越天楽」 鑑賞に関わる知識（雅楽の音楽的な特徴とその背景となる文化や歴史と関わり）を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 III : 「魔王」・「越天楽」 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・鑑賞ポート ・教材の準備
3 学期	歌唱	1. 毎月の聖歌 2. 「夢の世界を」 3. 「COSMOS」	○ ○	○ ○	○ ○	I : 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付けている。 II : 歌唱表現に関わる知識（曲想と音楽の構造との関わり）や技能（全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う）を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫している。 III : 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲のレポート ・教材の準備

					んでいる。	
アルトリコーダー	1.「オーラリー」 2.「カノン1・2」	○ ○	○ ○	○ ○	I：曲想と音楽の構造との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現で演奏するための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付けている。 II：器楽表現に関わる知識（曲想と音楽の構造との関わり）や 技能（息のコントロールやサミングなど）を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。 III：器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・楽曲のレポート ・教材の準備
鑑賞	鑑賞 箏曲「六段の調」	○	○	○	I：箏の音色や用いる音階の響き、音楽の構造などの特徴とその多様性について理解している。 II：鑑賞に関わる知識（箏の音色や用いる音階の響き、音楽の構造などの特徴とその多様性）を得たり生かしたりしながら、箏曲の固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 III：鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・鑑賞ポート ・教材の準備

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	美術	科目	美術	単位数	2	コース	全コース
教科書	美術（日本文教出版）						
副教材等	美術画材 プリント						

1 学習の到達目標

表現及び鑑賞の活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力をのばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

- ① 絵画分野・デザイン分野・鑑賞分野分野の基礎を学期毎に学習し身につける。
- ② 毎時間を大切にし、集中して授業に取り組む姿勢を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自分の個性を大切にしながら、作品制作を通じて表現力を身に付けてもらいたいです。
物や人をしっかりと観察し、同時に内面も想像する。豊かな観察力の習得をめざします。毎時間の授業を大切にし、制作毎の指導事項を理解した上で、丁寧に課題作品を仕上げ、提出期限を守り課題作品を提出してください。未提出の場合は評価不能で採点できません。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	課題についての理解。 美術鑑賞による知識の習得。 丁寧な作業。 新たな技法への挑戦。	作品制作において意図やアイ デアが練られている。 制作意図が第三者に伝わるよ うに工夫されている。	自分なりに興味を持ち、制作に 取り組んでいる。 制作を通じてテーマを深めて いく姿勢がある。
評 価 方 法	・作品 ・授業内でのワークシート ・制作状況 ・発問への対応	・作品 ・授業内でのワークシート ・制作状況 ・発問への対応	・作品 ・授業内でのワークシート ・制作状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評 定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	見 つ め る	描写課題 絵画分野課題	○ ○	○ ○	○ ○	対象をしっかりと見つめて、描けている。 課題説明が理解できている。 意欲的で、丁寧な作業。 自分なりの考えを深めている。	作品 ワークシート 制作状況
1 学 期 期 末	想 像 を 広 げ る	絵画分野課題 描写課題	○ ○	○ ○	○ ○	課題説明を理解し、自分なりの作品世界を創造できている。 意図にあった技法を選択できている。 意欲的で丁寧な作業。 対象をしっかりと見つめて、描けている。	作品 ワークシート 制作状況
2 学 期 中 間	表 現 を 広 げ る	デザイン分野課題 美術鑑賞 描写課題	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	課題説明を理解し、自分なりの作品世界を創造できている。 意図にあった技法を選択できている。 意欲的で丁寧な作業 課題の目的を意識できている。 対象をしっかりと見つめて、描けている。	作品 ワークシート 制作状況
2 学 期 期 末	観 察 を 深 め る	立体課題 描写課題	○ ○	○ ○	○ ○	課題説明を理解し、自分なりの作品世界を創造できている。 意図にあった技法を選択できている。 意欲的で丁寧な作業 課題の目的を意識し、自分の目標を設定できている。	作品 ワークシート 制作状況
3 学 期	表 現 を 深 め る	描写課題 平面分野課題	○ ○	○ ○	○ ○	課題説明を理解し、自分なりの作品世界を創造できている。 意図にあった技法を選択できている。 意欲的で丁寧な作業。 課題の目的を意識し、自分の目標を設定できている。 2学期までの制作経験を活かしている。	作品 ワークシート 制作状況

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	保健体育	科目	保健体育	単位数	3	コース	全コース
教科書	新しい保健体育（東京書籍）						
副教材等							

1 学習の到達目標

心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校生活において、集団で行動する事が非常に多くなります。体育では、集団で行動する事の大切さ、守らなければならないルールをお互い守ることによって、集団で行動する事の秩序を保ちます。そのうえで、多種多様なスポーツに積極的に取り組んでみてください。スポーツの楽しさや達成感を感じられ、健康な生活を送ることができます。

「体育」：毎時間評価を行い、学期に数回テストを行う。

授業に参加する態度や安全に注意しているかなどを総合的に評価する。また、長期の見学者については、教材を使用し、レポートを提出させることによる評価をする。

「保健」：各単元毎に小テスト、各学期末に定期考査を実施する。授業に参加する態度や関心、意欲があるかなどを総合的に評価する。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊に実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し、判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート

		食生活と健康			りして課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。	
		休養・睡眠と健康			自分の意見を言ったり、他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
		調和のとれた生活			健康を保持増進するためには、年齢や生活環境などに応じて休養や睡眠をとることが必要であることを、言ったり書いたりしている。	
		運動やスポーツの必要性和楽しさ			健康の保持増進には、年齢や生活環境などに応じた運動、食事、休養および睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを、言ったり書いたりしている。	
					運動の必要性やかかわり方について関心を持ち、進んで学習しようとしている。	
2 学 期 中 間						
2 学 期 期 末		「体育」集団行動、ラジオ体操、トレーニング、リレー、サッカー、器械運動	○	○	○	<p>体育：「思・判・表」各種目で自己の課題を見出すことができたか。</p> <p>「知・技」 各種目での様々なルール・認識を身につけることができたか。</p> <p>「思・判・表」 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高め</p> <p>行動観察，発言，発表，ワークシート，実技テスト・定期テストなど</p>

		<p>「保健」 体の発育・発達</p> <p>呼吸器・循環器の発育発達</p> <p>生殖機能の成熟</p> <p>異性の尊厳と性情報への対処</p> <p>運動やスポーツへの多様な関わり方</p>			<p>たりすることなどに関連づけて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを他者に伝えたり、表したりしている。</p> <p>保健：心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>心身の機能の発達と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている</p> <p>心身の機能の発達と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>運動の実践に生かせる課題を設定し、その課題解決の仕方を見出している。</p>	
3 学 期		<p>「体育」集団行動、ラジオ体操、持久走、トレーニング</p> <p>「保健」 心の発達</p>			<p>体育：「思・判・表」各種目で自己の課題を見出すことができたか。</p> <p>「知・技」 各種目での様々なルール・認識を身につけることができたか。</p> <p>「主」 心身の機能の発達と心の健康について関心をもち、主体的に学習の進め方を</p>	<p>行動観察、発言、発表、ワークシート、実技テスト・定期テストなど</p>

					工夫・調整し，自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組もうとしている。	
		自己形成と心の健康			心身の機能の発達と心の健康について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見つたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。	
		心と体の関わり			心身の機能の発達と心の健康について，健康に関する資料等で調べたことをもとに，課題や解決の方法を見つたり，選んだりするなどして，それらを説明している。	
		欲求と心の健康			心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		ストレスによる健康への影響			欲求やストレスへの対処と心の健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている。	
		ストレスへの対処の方法			心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		運動やスポーツの多様な楽しみ方			運動の実践に生かせる課題を設定し，その課題解決の仕方を見出している。	

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	技術・家庭	科目	技術・家庭	単位数	2	コース	全コース
教科書	「新しい技術・家庭 技術分野」（東京書籍）「新しい技術・家庭 家庭分野」（東京書籍）						
副教材等	「技術・家庭ノート 技術分野」（新学社）、プリント、プリント用ファイル						
	「技術・家庭ノート 家庭分野」（新学社）、プリント、プリント用ファイル						

1 学習の到達目標

生活の自立を図る観点から実践的・体験的な活動を重視し、生活に必要な知識と技術 の習得を目指す。
さらに、生活を工夫し、創造しようとする積極的な態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

週に 1 回、2 時間（技術分野・家庭分野）の授業を大事に受けてください。自分では知らなかったこと、興味が持てたことをさらに追求し、そして自分自身の生活を見つめ、課題を見出し、学習したことを積極的に生活の中で役立ててください。 そのためにも何事にも好奇心を持って過ごしてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

※成績は技術分野と家庭分野それぞれに算出し合算する。

【技術分野】

観 点	I：知識・技能	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	生活や社会で利用されている技術について理解していると ともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評 価 方 法	定期考査、実技テスト 小テスト、ワークシート 製作品など	定期考査、ワークシート レポート、製作品など	レポート、ワークシート、 行動観察、発問への対応など

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

【家庭分野】

観 点	Ⅰ：知識・技能	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	家族・家庭の基本的な機能に付いて理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。	これらの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と共同し、寄りよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、 製作品、実技テスト ワークシート、ワークなど	行動観察、定期考査、 製作品、ワークシート、 ワーク、レポートなど	行動観察、レポート、 ワークシート、ワーク、 発問への対応など
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ：知識・技能 Ⅱ：思考・判断・表現 Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

【技術分野】

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1 学 期	生 物 育 成 の 技 術	1 章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み 1 生物育成の技術とは何だろう 2 作物の育成環境を調節する技術 3 作物の成長を管理する技術 4 動物を育てる技術 5 水産生物を育てる技術	○		○	生物の生態の特性や環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。	定期考査 ワークノート

		2 章 生物育成の技術による問題解決 《実習》水耕栽培生物の育成一発表		○	○	育成の目的に合わせて最適化を図りながら、改善及び修正する力を身につけている。	定期考査 行動観察 レポート ワークシート発表 育成した作物
		3 章 社会の発展と生物育成の技術 1 生物育成の技術の最適化 2 これからの生物育成の技術		○	○	社会からの要求、安全性、環境負荷、経済性の視点から、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、主体的に考えようとしている。	ワークシート 発表 レポート
2 学期	情報技術	1 章 情報の技術の原理・法則と仕組み 1 情報の技術とは何だろう 2 情報のデジタル化 3 情報通信ネットワークの仕組み 4 安全に利用するための情報モラル 5 安全に利用するための情報セキュリティ	○	○	○	・情報の技術の基本的知識について理解している。 ・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のためにとるべき態度や安全の確保に必要な判断力を身につけている。	定期考査 ワークシート 行動観察
		《実習》コンピュータの基本操作 ・文書処理ソフトウェアの操作と文書の作成	○	○	○	情報を整理し、わかりやすく伝える力を身につけている。	定期考査 行動観察 実技テスト ワークシート
		2 章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 《実習》プログラミング体験ゲーム		○		情報処理の手順を具体化する力を身につけている。	ワークシート 定期考査
		4 簡単な Web 作成を制作しよう		○	○	・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身につけている。 ・自らの問題解決をふり返り、よりよいものになるように改善、修正しようとし	定期考査 行動観察 作品 ワークシート

						ている。	
3 学 期	材 料 と 加 工 の 技 術	2 章 材料と加工の技術による問題解決 《実習》・製図のきまり ・キャビネット図 ・等角図 ・第三角法による正投影図	○	○	○	JIS 規格に合わせて正確に製作に必要な図に表すことができる技能を身につけている。	定期考査 小テスト ワークシート

【家庭分野】

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	○		○	・基礎縫いの仕方を理解している。 ・中学校生活で使用する聖典入れ製作を通して、生活に役立つ物づくりを主体的に取り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシート
	家 族	5 編 私たちの成長と 家族・地域 これからの家族と地域	○	○	○	・自分の成長と家族との関りについて理解している。 ・地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。	行動観察 ワーク
2 学 期	食 生 活	1 編私たちの食生活 1 章食事の役割と中学生の栄養の特徴 1 食事の役割 2 私たちの食生活 3 栄養素とは 4 中学生に必要な栄養	○	○	○	・食事の果たす役割について理解している。 ・自分の食習慣についての問題を見出し、日常生活で実践することの大切さに気付かせる。 ・栄養素の種類と働きについて理解し、中学生に必要な栄養の特徴について理解している。	行動観察 ワーク 定期考査
	衣 生 活	《実習》 調理実習用三角巾製作 (刺しゅう)	○	○	○	・三角巾の刺しゅう製作を通して、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	実技作品 ワークシート 行動観察

	食生活	<p>2 章中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>1 食品に含まれる栄養素</p> <p>2 何を食べれば良いか</p> <p>3 献立作り</p> <p>《実習》 調理実習 1 回目</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品の栄養的な特徴を理解し、 <p>1 日の献立作りを実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 日分の献立について、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・自分の食生活を振り返って生活を工夫し改善しようとしている。 ・調理実習を通して、食品や調理用具などの安全と衛生に留意し、調理しようとしている。 	<p>行動観察</p> <p>ワーク</p> <p>定期考査</p>
3 学期	食生活	<p>4 章日常食の調理と地域の食文化</p> <p>4 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>5 日本の食文化と和食の調理</p> <p>《実習》 調理実習 2 回目</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日常使用する食材の特徴を理解しているとともに基礎的な調理を実践しようとしている。 	<p>行動観察</p> <p>ワーク</p> <p>定期考査</p>

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	外国語	科目	英語	単位数	5	コース	全コース
教科書	NEW CROWN English Series 1 (三省堂)						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学必修テキスト英語 1 年 NEW CROWN (三省堂) ・ サポートブック 英語 1 三省堂版[NEW CROWN]準拠 						

1 学習の到達目標

<p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 簡単な商品説明や天気予報などを聞いて、自分が必要な情報を聞き取ることができる。 ● 興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、大まかな内容を聞き取れる。 ● 短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取ることができる。 <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取ることができる。 ● 簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取ることができる。 ● 写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかむことができる。 ● 簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取ることができる。 <p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合うことができる。 ● 準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをすることができる。 ● 社会的な話題について、読んだ英文の内容について、考えたことや感じたことを伝え合うことができる。 ● 身近な人物について、即興で簡単な紹介ができる。 ● 自分の興味のある事柄（好きな偉人や理想のロボットなど）について、準備した上で発表することができる。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分を紹介する短い文章を書くことができる。 ● 学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書くことができる。 ● 読んだ英文の内容について、考えたことや感じたこと、疑問に思ったことを書くことができる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語は知識だけでなく、技能でもあるので、毎日の継続的な練習が大切です。授業だけでなく「読む」「聞く」「話す」「書く」にできるだけ多く触れましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
--------	-------------	-------------	-----------------------

観 点 の 趣 旨	<p>【聞くこと】</p> <p>[知識] 1 年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 1 年生で学ぶ言語材料を活用して、日常的な話題について（はっきりと）話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>【読むこと】</p> <p>[知識] 1 年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 1 年生で学ぶ言語材料を活用して、日常的な話題について書かれた文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>【話すこと】</p> <p>[知識] 1 年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 日常的な話題について、1 年生で学ぶ言語材料などを用いて、事実や自分の考えなどを、(即興で) 伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>【書くこと】</p> <p>[知識] 1 年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 日常的な話題について、1 年生で学ぶ言語材料などを用いて、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身に付けている。</p>	<p>【聞くこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、簡単な商品説明や天気予報などを聞いて必要な情報を聞き取っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、その大まかな内容を聞き取っている。 ・短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取っている。 <p>【読むこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取っている。 ・簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取っている。 ・写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかんでいる。 ・簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取っている。 <p>【話すこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合っている。 ・準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをしている。 <p>【書くこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を紹介する短い文章を書いている。 ・学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書いている。 	<p>【聞くこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な商品説明や天気予報などを聞いて、必要な情報を聞き取ろうとしている。 ・自分の興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、その大まかな内容を聞き取ろうとしている。 ・短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取ろうとしている。 <p>【読むこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取ろうとしている。 ・簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取ろうとしている。 ・写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかもうとしている。 ・簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取ろうとしている。 <p>【話すこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合おうとしている。 ・準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをしようとしている。 <p>【書くこと】</p> <p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を紹介する短い文章を書こうとしている。 ・学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書こうとしている。
評価方法	定期考査、宿題考査、小テスト	定期考査、提出課題、小テスト、授業の様子、オンライン英会話	授業への取り組み、提出課題、オンライン英会話
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評			

定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Starter 1～6	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞と一般動詞の現在形(1・2 人称)の文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 ・ What do you...?や What+(名詞) do you...?の意味や働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 ・ How many...?の意味や働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 ・ 助動詞 can を用いた文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 ・ When is...?の意味や働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L1	About Me					
	L2	My Hero					
1 学期 期末	L3	My Treasure	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞(3 人称)を用いた文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L4	My Summer Plans					

						<ul style="list-style-type: none"> • What is this?や Who is...?の意味や働き、人称代名詞(目的格)の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 • I went to[ate/saw/enjoyed -ing]....や Where do you want to go? / I want to.... の意味や働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 	組みなど
2 学 期 中 間	L5	Ms.Brown's Family	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 3 人称単数現在形や現在進行形(肯定文と疑問文)の文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 • Whose...?や Which..., A or B?の意味や働き、働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L6	School Life in the U.S.A.					
2 学 期 期 末	L7	Athletes with Spirit	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 一般動詞(規則・不規則)の過去形を用いた文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 • be 動詞の過去形や過去進行形の肯定文の特徴や決まりに関する事項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 • look+A の意味や働きを理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。 	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L8	Discover Japan					
3	L9	Emergency Food	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 助動詞 will や be going to....の肯定文・疑問文の特徴や決まりに関する事 	定期考査 小テスト

学 期					項を理解し、それを含む文の内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる。	提出課題 授業の様子 授業への取り組み
--------	--	--	--	--	---	---------------------------

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	コールユーブンゲン	科目	コールユーブンゲン	単位数	1	コース	音楽
教科書	コールユーブンゲン（大阪開成館発行）						
副教材等	子供のためのソルフェージュ 1a（音楽之友社）						

1 学習の到達目標

- ・基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。
- ・音感やリズム感を養い、読譜力の向上につなげる。
- ・正しい音程を身に付け、また音程を正しく聴き取る力を培う。
- ・新曲視唱では素早く読譜し、正確に視唱できる力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。コールユーブンゲンや新曲視唱で歌唱力、正しい音感やリズム感を養ってください。それらは専攻実技も含め、全ての音楽専門教科に通じます。不得意な場合も諦めず、続けて努力していきましょう！きっと多くの知識と能力が身につくはずです。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	譜表に書かれた楽譜を見て、音楽を形づくっている要素を正しく読み取り、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、旋律やフレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌唱に活かすことができる。	音高や音程、リズムなどを正しく把握し、旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚といった豊かな表現をもって歌うことができる。	音高やリズムを正しく表現できるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	音階と拍子・二度音程	コールユーブンゲン No.1～17 音階、拍子 二度音程	○	○	○	I：正確な音程やリズムで歌うことができる。また、臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では「子供のためのソルフェージュ 1a」を用いて、さまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		子供のためのソルフェージュ 1a 第 1～2 課	○	○	○		
2 学期	三度音程	コールユーブンゲン No.18～22 三度音程	○	○	○	I：正確な音程やリズムで歌うことができる。また、三度音程の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。リズム読法練習を用いて、リズム感を養うことができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では付点のリズムを中心さまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		子供のためのソルフェージュ 1a 第 3 課	○	○	○		

3 学 期	四 度 音 程 ・ リ ズ ム	コールユーブンゲン No.23～25 四度音程、リズム	○	○	○	a：和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、四度音程の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。さまざまなリズムパターンにも対応できる。 b：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 c：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では休符にも対応しながらさまざまな種類の曲を自発的に取り組むことができる。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		子供のためのソルフェージュ 1a 第4課	○	○	○		

2025 年度 相愛中学校 1 年 シラバス

教科	聴音	科目	聴音	単位数	1	コース	音楽
教科書	なし						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。リズムや調性を覚えることによって、音感やリズム感を養ってください。頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を形作っている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求を主体的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

1 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4 拍子) C: a: (4~8 小節)	○	○	○	五線に正しく記譜できている。 簡単な旋律を聴きとれる。 拍子を理解している。 新しい課題を取り入れ、複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	三 和 音	基本形、転回形 C:	○	○	○	音の高さを判断できる。 重音を聴きとれる。	主体的な授業態度 定期テスト
2 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4、6/8 拍子) C: a: (4~8 小節)	○	○	○	複雑な旋律が聴きとれる。 複合拍子を理解している。 新しい課題を取り入れ、複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	複 旋 律	2 声 C:	○	○	○	大譜表を理解している。 音の高さが判断できる。	主体的な授業態度
	三 和 音	基本形、転回形 (2/2 拍子) C: (4 小節)	○	○	○	重音を聴きとれる。 和音の流れを感じ取ることが出来る。	定期テスト
3 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4、6/8 拍子) C: a: (4~8 小節)	○	○	○	8 小節の旋律を聴きとれる。 複合拍子を理解している。 新しい課題を取り入れ、複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	複 旋 律	2 声 C:	○	○	○	大譜表を理解できている。 音の高さが判断できる。	主体的な授業態度
	三 和 音	基本形、転回形 (2/2 拍子) C: (4 小節) 四声体: 2/2 C: (4 小節)	○	○	○	重音を聴きとることが出来る。 大譜表が理解できている。Sop、Alt、Ten、Bass の音を聴きとることが出来る。 和音の流れを感じ取ることが出来る	定期テスト